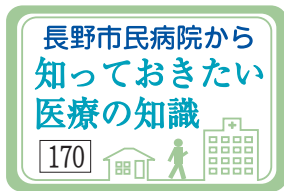




宮沢 英明

今回は、心臓の拍動を守る医療機器、ペースメーカーの話です。心臓は、電気刺激によつて拍動しています。心臓の中に刺激を出す場所「洞結節」と刺激の通り道「刺激伝導系」があり、ここに異常が起きると脈拍が遅くなり、体の具合が悪くな



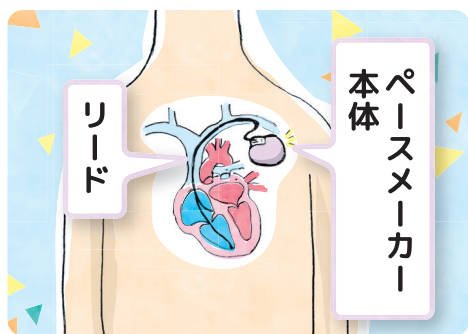
ります。ペースメーカーは心臓に代わって正常な電気刺激を出し、送ることで、こうした状態を改善します。ペースメーカーは、3センチ×2センチほどの大きさの本体と、リードの細く柔らかい管からなります。手術で本体を主に左の鎖骨の下に植え込み、リードを鎖骨下静脈から心臓の中に挿入して固定します。

三つのことに注意

ペースメーカーを使う人は、日常生活で「電気」「磁気」「振動」の三つに気を付ける必要があります。

臨床工学科主査（臨床工学技士）

ペースメーカー



ペースメーカー本体

リード

まず「電気」です。ペースメーカーは心臓から電気刺激を検知し、心臓が拍動していることを認識しています。このためリードに体の外から電気が流れると、心臓が動いていると誤認識し、出すべき刺激

を出さなくなる可能性があります。患者さんらの電気刺激を検知し、心臓が拍動していることを認識しています。このためリードに体の外から電気が流れると、心臓が動いていると誤認識し、出すべき刺激

電話やIHクッキングヒーターは20センチ、IHクッキングヒーターは40センチ以上離してください。体に電気が流れる電気風呂、筋肉量や体脂肪率が測定できる体重計は使用禁止です。

次に「磁気」の影響です。ペースメーカーは、磁気を近づけると一定のリズムで脈拍を打つ機能を持っています。ペースメーカーの上や周辺に磁石を近づけるとこの機能が動き、急に脈拍が速まってド

キドキと感します。肩凝りをほぐす磁石付きのシールや、スピーカー機能を搭載したマイクを近づけるとこうしたことが起きるため、使用禁止です。「振動」も心臓の動きを誤認識する可能性があります。温泉施設などにあるマッサージチェアは使えません。距離を取れば正常に

心臓の拍動を守る使用に注意点も

もしこうした物を使っていて脈拍がおかしくなったり、急にドキドキする感じを覚えたります場合は、すぐに使用を中止してください。原因である物と距離を取れば、ペースメーカーはすぐに元の正常な状態に戻りますので、安心してください。